

JCMA 関西

Japan Construction Machinery and Construction Association, Kansai Branch Office

JCMA 関西 秋号

巻頭言



特集

通常総会



建設機械施工管理技術検定試験
建設技術展・ふれあい土木展
のPR

合同見学会
災害対策講習会



新入会員
重機部会PR
支部行事報告
編集後記

01 巻頭言
「地球沸騰に思う」

02 特集
「2025年日本国際博覧会
(大阪万博)」

- 03 総会報告
- 04 合同見学会
- 05 災害対策講習会
- 06 建設機械施工技術検定試験
- 07 建設技術展・ふれあい土木展のPR
- 08 新入会員
- 09 重機部会PR
- 10 関西支部行事報告
- 11 編集後記

123
Autumn
2025

地球沸騰に思う

関西支部 支部長 深川良一



連日の猛暑である。高校野球を見ていると、いつの時代も真夏の甲子園は大変だと思う。松坂選手がエースとして甲子園春夏連覇を達成したのは1998年のことだった。しかし、松坂選手が活躍した頃の夏は最高気温が35℃に達することがまれだったと聞くと現在の異常さが際立ってくる。それから四半世紀が過ぎ、すっかり地球環境が変化してしまった。最高気温は40℃を超えることが珍しくなくなり、しかもその発生場所は日本全国に広がってきている。また夏季の高温期と言え、少し前までは7月の梅雨明けから9月の初旬位までを指すという認識だったが、今や6~10月というイメージである。

私自身は2010年頃よりかなり強く地球温暖化を意識するようになった。世界と日本の年平均気温の変化を見てみると両者とも同じような変動を示している。すなわち、1970年位以降の気温の上昇速度は、明らかにそれ以前のものとは異なって上がってきており、また2010年頃より気温の上昇速度がさらに増してきている。特にこの2、3年は観測史上最も高温であるような状態が続いている。

一方、日本の年平均降水量は期間ごとに際立った特徴を示している。すなわち、1960年~2010年頃は多雨と少雨（干ばつ）の年が交互に繰り返すような特徴を示しているのに対し、2010年~2020年は顕著な多雨傾向を示した。2021年以降は小雨傾向である。気温と降雨の関係については必ずしも明確な理由付けがなされているわけではないが、平均気温の上昇が集中豪雨の増加や台風の激化等に大きな影響を及ぼしていることはほぼ間違いないだろう。雨の多い年は河川・土砂災害が多発し、犠牲者も増えた。2011年紀伊半島災害、2014年広島土流災害、2017年九州北部災害、2018年西日本災害等、記憶にも記録にも残る大規模土砂・河川災害は枚挙に暇がない。

雨の少ない年の気象災害としては、これまでは干ばつが主要なもので、その結果農作物の不作や水道水供給量低下等が顕著だった。最近ではこれらに林野火災が加わった。今年3月には大船渡、今治、岡山等で相次いで大規模な林野火災が発生した。また高温に起因する熱中症などの健康被害が顕著である。いずれにおいても国民の生命・

財産が直接脅かされ、地球温暖化の影響が1ランク上がったことを実感させることになった。

高温に伴う林野火災に関しては、海外に目を転じるとさらに強烈な現象が発生し、被害も甚大である。2023年8月にハワイで発生した林野火災では約100名が犠牲になり、最も被害の大きかったマウイ島ラハイナでは2200棟以上が全焼した。その時点で米国100年の歴史の中で最悪の林野火災と言われた。ところが、2025年1月にロサンゼルスで発生した林野火災はさらに大規模な被害をもたらした。少なくとも29人が亡くなり、被害の大きかったアルタデナとパシフィック・パリスーズでは16,200棟以上が全焼した。2024年3月に発生した韓国の林野火災も大規模なものだった。韓国の各地で発生した林野火災により30人が犠牲になり、2900棟を超える家屋が焼失したという。大船渡林野火災における犠牲者は1名、全焼家屋（住宅）数は76棟なので、これらの被害の大きさが分かる。

地球温暖化の流れを止めるには、まず大気中のCO2濃度の上昇を抑えなければならない。地球温暖化への対応は世界が1つになって全地球レベルで取り組むべきものである。しかし、世界の現状は全く逆方向であり、混迷の度は益々深まっている。一部の大国は領土的野心を隠そうとせず、戦争という名の深刻な環境破壊を大規模に続けている。最近アメリカもこれら横暴な大国の列に加わりようとしている。脱炭素化の流れは停止され、地球温暖化などデマであるというような信じがたい情報も間断なく発信され続けている。

事態は深刻であるが、良識のある国、国民は、国、自治体、組織、個人等のあらゆるレベルで脱炭素化の流れをさらに加速させ、国際的な取り組みを強化していくべきであろう。さもなければ、地球は近い将来地球温暖化に関するティッピングポイントを超え、後戻りのできない異常な高温環境にさらされることになるだろう。ティッピングポイントとは、少しずつの変化が急激な変化に変わってしまう転換点のことである。危惧されるティッピングポイントは南極氷床の融解、北半球高緯度地域永久凍土の融解およびそれに伴うメタンガスの排出等である。いずれも差し迫った危機である。

大阪・関西万博を訪ねて

一般社団法人
日本建設機械施工協会
「JCMA 関西」編集委員

今回の大阪・関西万博 2025 は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、「未来社会の実験場」をコンセプトとして開催されています。

日本建設機械施工協会（JCMA）の会員企業様もパビリオンに出展されていることから、「未来社会の実験場とはどんな世界か?」「未来の建設現場はどうなっているのか?」の観点から2025年7月11日（金）、木村広報部会長以下広報部会メンバーで大阪・関西万博の視察を行いました。

今回視察した中で主なパビリオンをご紹介します。

【視察パビリオン①】未来の都市

未来の都市パビリオンは博覧会協会と12者の企業・団体が共創した15のアトラクションが魅力的で、会場の広さが長さ約150m、展示面積が3,300㎡もあり、会場の中でも最大規模のパビリオンでした。

人類は、常に発明によって新しくくらしや社会を創り出す中で、今ひとりひとりの幸せを実現するための新しい発見の時代を迎えています。その中で、様々な地球課題、社会課題をどう乗り越えていくことで、わたしたちの暮らしの課題をどう解決していくのか、そしてどんな幸せをつくることができるかを経験することができるパビリオンとなっていました。

パビリオンに入るとすぐ大きなスクリーンに出迎えられ、すぐに幻想的な世界に没入しました。Society2.0から5.0まで、参加企業の英知の結集により構成された課題解決への取り組みは見る者を新鮮な気持ちにさせてくれました。

個人的には見守る電柱こと「スマートポール」が印象的で、通信基地局や公衆Wi-Fi、街路灯、防犯カメラなどを備えた多機能ポールであります。街行く人々が安全に暮らせるよう監視もしつつ、湾曲型ディスプレイを用いて情報発信し、搭載されたAIカメラで人流解析や迷子探査などが可能に



なるようです。未来型の電柱が衝撃的であり印象深く記憶に残りました。



その後も見るだけでなく、参加型のアトラクションが多く、好奇心がどんどん湧き出てくる感覚が懐かしく思えました。

また、会場全体を見渡すと、タイプ A と呼ばれるパビリオンは各国ともデザイン性に富んでおり、美しい建物がズラリと並んでいました。開催までの期間は工期に関するマイナス面の報道も多くありましたが、建設会社各社の涙ぐましい努力の結晶でもあったと感じました。

【視察パビリオン②】大阪ヘルスケアパビリオン

大阪ヘルスケアパビリオン、リボンチャレンジ期間限定特設ブース（7/8~7/14）にて、会員企業である大林組（西日本ロボティクスセンタ）様が、同志社大学と協力し、脳波で機械を操作する技術、BMI（Brain Machine Interface）の研究開発の出展されておりました。

会場では実際の脳波計の展示や、試験の様子、ラジコンバックホウを用いた

デモンストレーションを見学することができます。



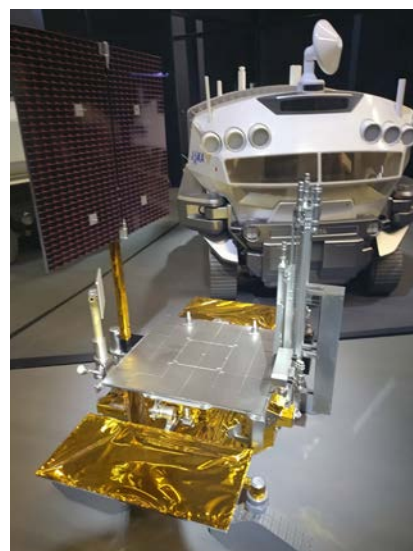
BMI によって脳波や神経信号を読み取り、それらが機械を操作できる算式に変換し、建設重機を遠隔から操縦するというものです。これらの実体感を目的として現在までの研究進捗開示や周辺技術のデモンストレーションと展示がされていきました。（株）大林組 東様や木村様から概要説明とデモンストレーションを実践して頂き、未来では当たり前のように活躍する遠隔操作の最先端技術をこの段階から拝見させて頂けたのも貴重な体験でありました。

【視察パビリオン③】JAXA パビリオン

月面探査に関わる探査機・探査車の模型が展示され、それぞれの機能や役割についてミニシアターで紹介するパビリオンとなっていました。

その映像の中で、204X 年には、人間は月の建設も

行いながら、火星を目指して更なる研究を進めていると言うドラマ仕立てになっており、普段地球に住んでいる我々には感じる事のない世界感やこれまでの建設技術が駆使されて、月面での施工にも繋がっていると感じ、20年後か30年後になるか分かりませんが、近い将来が楽しみで、これぞ万博に来たなと思わせる内容でした。





令和7年度総会

一般社団法人日本建設機械施工協会関西支部第14回通常総会は、令和7年5月14日（水）に大阪市中央区の大阪キャッスルホテルにおいて、団体会員119社（委任状含む）の出席により盛会の内に開催された。

関西支部の強みを生かしてさらなる発展を!

開会にあたっては、深川良一支部長から、地球温暖化に起因する災害やインフラ施設の老朽化に伴う事故が多発し、維持更新の重要性が高まっている。それらを支える建設機械が果たす役割は非常に大きい。本年度も支部会員のご協力を得ながらさらに発展していきたいと挨拶があった。



深川支部長挨拶

i-Construction 2.0を展開



本部・岩見業務執行理事

本部・岩見吉輝業務執行理事から会員各位に対し協会並びに支部活動についての支援、協力にお礼を述べられた。そして国土交通省では昨年度より「i-construction2.0」をス

タートさせ ICT、DX の取組を加速させており、建設業界における省人化、担い手不足に対応した、「人が少なくても施工できる技術」としてのオートメーション化も含め注目されている。さらに、地方の中小建設会社に対しては、何のための ICT 導入なのかを考え、上手に ICT を活用する「生産技術」としての ICT の普及を進めている。一方で、建設現場におけるカーボンニュートラルの取組も喫緊の課題であり、当協会では、「建設現場のCO2 可視化推進会議」を設置し、CO2 発生量を定量的に把握する手法とルールを検討している。支部においても各種講習会を通じて最新技術を習得できるよう務めているが、今後も会員皆様の協力の下、取り組んで頂きたいと述べられた。

令和6年度事業報告・決算報告の承認及び 令和7年事業計画・収支予算を可決

総会の議事では、令和6年度事業報告、決算報告が行われ原案通りに可決された。令和6年度の建設機械 施工技術検定試験の実施状況や、「建設技術展 2024 近畿」、「ふれあい土木 2024」への出展などの情報化 施工 (ICT 施工) の普及・促進活動の報告、現場見学会等の各部会活動報告がありました。

令和7年度の事業計画では、各部会・技術委員会の開催や「建設技術展 2025 近畿」、「ふれあい土木展 2025」への出展の取り組み、近畿地方整備局との意見交換会の実施なども提案された。また、災害時における近畿地方整備局との協定に基づく協力体制の充実等に取り組むことも報告された。



講師：北海道大学低温科学研究所・北極池研究センター教授 杉山 慎 氏

総会後の講演では、「南極氷床」と題し、地球最大の氷に何がおきているのかについて講演が行われた。講演では、氷河氷床に関する物理現象と変動メカニズムの解明の取組について紹介があり、地球温暖化における地球の環境改善の解明に役立つとのコメントがあった。

永年団体会員表彰

一般社団法人日本建設機械施工協会団体会員等表彰規程に基づき、本部長表彰の授与が行われ本部長岩見理事から賞状が授与された。



支部団体会員（5社）	
会員期間 70年	範多機械（株）
会員期間 60年	（株）小松製作所
	丸矢工業（株）
会員期間 40年	（株）スターロイ
会員期間 20年	（株）レンタルのニッケン
個人に対する表彰（2名）	
運営委員 8年	東 幸生（株）鴻池組
運営委員 7年	堀内民夫 西松建設（株）

優良建設機械運転員等表彰

また、関西支部優良建設機械運転員等表彰規程に基づく受賞者の表彰式が行われた。技術者不足が言われている中、建設現場での今後の活躍が期待されるところである。今年度は、運転部門5名、整備部門は1名で、合わせて6名の方が受賞され、記念品や記念バッジが贈呈された。



運転部門（5名）

藤井 立男	（株）ケイメック：推薦（株）大林組
永田 哲也	（株）サイガ
清水 孝則	（株）竹中工務店
藤原 秀啓	（株）中川組：推薦 村本建設（株）
山中 達也	日本ロード・メンテナンス（株）

整備部門（1名）

岡本 大助	西尾レントオール株式会社
-------	--------------

総会終了後懇親会を開催

総会終了後の懇親会は、深川支部長の挨拶で始まり、来賓の近畿地方整備局高橋伸輔企画部長の乾杯のご発声によりスタートした。支部会員をはじめ部会・委員会関係者等が参加で盛大に開催された。

途中、講演された杉山講師が、南極から持ち帰られた実際の氷を使い、氷が水に溶けるときの音を聞く体験も場を盛り上げていた。

そして、大いに盛り上がる中、大西康之副支部長の中締めをもって懇親会を終了した。

「令和6年度建設業部会、リース・レンタル業部会 合同見学会開催」

2025年2月10日(月)に令和6年度建設業部会、リース・レンタル業部会の合同見学会を開催致しました。



令和6年度は、協会に加盟して頂いているコマツカスタマーサポート株式会社に協力を頂き、大阪府の枚方市にある株式会社小松製作所 大阪工場にて見学会を実施しました。

2024年12月に発表された最新20tクラス油圧ショベルPC200i-12型の実機体験を含めた見学で、建設業部会16名、リース・レンタル業部会16名、事務局3名計35名の参加となりました。



公共工事をはじめとする土木工事では3Dマシンガイドが必要な機能となっておりPC200i-12では標準装備、コマツ独自のIntelligent Machine Controlにより3D施工への対応を強化しマシンコントロール機能も追加出来る仕様となっています。

新世代油圧ショベル「ICT油圧ショベル」は幅広い施工に対応でき工期短縮と人員削減に貢献しており、自動旋回機能やジオフェンス機能といった建設業界に求められる生産性の向上に加え、衝突検知ブレーキシステムや前後進表示による誤操作防止サポート機能等、安全性の向上が図られています。また、長時間作業となるオペレーターへの負担軽減を考慮したキャブ設計など作業環境の改善といった次世代型の油圧ショベルとなっております。



今回、ご尽力頂いたコマツカスタマーサポート株式会社(株)小松製作所 大阪工場の皆様には本当に感謝しており、今後とも最新の建設機械情報を提供頂きたく宜しくお願い申し上げます。



「緊急災害応急対策業務に関する協定」に関わる 災害対策用機械の現場対応訓練

令和7年7月23日（水）、近畿地方整備局主催による「緊急災害応急対策業務に関する協定」に係わる災害時機械関係業務の現場対応訓練が開催されました。（一社）日本建設機械施工協会関西支部、（一社）河川ポンプ施設技術協会の2団体から65名、当関西支部からは57名が参加しました。

応急復旧活動について（座学）

午前中は、「応急復旧活動について」の座学で、冒頭に近畿技術事務所の矢野事務所長の挨拶があり、災害対応への協力体制へのお礼と災害への備えていくことの重要性を述べられました。



その後に近畿地方整備局の服部防災室長から緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活動や近畿での災害、TEC-FORCEの強化と多様な主体との連携強化による被災自治体への新たな応援体制の構築などの講義がありました。

「天災は忘れた頃にやってくる」と言われるように過去の災害の教訓などは常に意識していないといざという時の備えはできないと感じました。午前中の講義では、昨今の気候変動や過去の災害事例対応の事例や災害に対する備えなどを改めて学ぶことができ、いかに自分事として捉えることが重要であるかを気づかされ、防災に対する意識向上につながりました。

災対機械の操作訓練

午後からは、災害対策用機械の実機による操作訓練を実施しました。操作訓練は4セッションで、約15名

ずつ4班に分かれて行われました。

排水ポンプ車は、5名ずつが横置き型の排水ポンプとフロート（浮き輪）を接続し、その後、吸水用ホースと排水用ホースをクランプで接続。参加者からは、「接続については思っていたより意外と簡単だった。実際の

被災地の現場では難しいと思われるが、訓練を実施してもらえることで、実災害時に出勤しても対応できると思った。ただ、実現場でのノウハウも教えて頂けたらなお良いと感じた。」とのコメントも頂きました。



次に、遠隔操縦が可能な1.0㎡クラスの分解型対応型バックホウを目視にて実際に操作。災害現場では危険個所が多く有人施工では2次災害に巻き込ま

れることが想定されるため、無人で遠隔で操作できるものです。実際に体験された方からは、「操作レバーと実機の動きに微妙なタイムラグがあり、実操作との違いに慣れるまで時間が必要と感じ、訓練で知ることができたのは有効でした。」とのコメントがありました。

近年、異常な気象変化によるゲリラ豪雨等、様々な災害が続く中、いつどこで何が起こるか分かりません。日頃より防災の意識を持ち災害時には冷静な対応ができるように、今後も継続して近畿地方整備局と連携して実施していきます。

令和7年度 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験

第一次検定・第二次検定（筆記）を実施

令和7年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定（第一次検定・第二次検定（筆記））試験は、令和7年6月15日（日）全国一斉に行われました。大阪会場は、昨年度は摂南大学で実施しましたが、今年度は大阪電気通信大学寝屋川キャンパスで行いました。令和6年度制度改正により、第二次検定の受検申請は第一次検定の合格者に限り受付を行い、これまで行って



いた第一次検定の合格を前提とした第二次検定の同年度内での申請受付は取りやめることになって2年目ですが、昨年より少ない受検数となりました。受検者数は、1級と2級を合わせて922名でした。

なお、2級における受検種別の内訳は、圧倒的に2種が多く、続いて1種、4種の順となりました。また、相変わらず3種、5種の受検者は1桁となりました。合格率は1級が約19%、2級が約40%でした。

	1級	2級							
		共通	種別（延人数）						計
			1	2	3	4	5	6	
受検予定者	355	644	37	585	3	30	7	12	674
実受検者	327	595	32	538	3	25	6	123	616
受検率（%）	92	92	86	92	100	83	86	100	91

表-1 令和7年度第一次検定試験受検者数

第二次検定試験

令和7年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定試験（第二次検定）は、令和6年度制度改正からの2年目となります。昨年度に比べ、1級、2級合わせて180名程度増加しています。下記の日程で実施されました。

【小野会場】

令和7年8月29日（土）～ 8月30日（日）

【明石会場】

令和7年9月6日（土）～ 9月8日（月）

表-1 令和7年度（1級）第二次検定試験受検者数

1級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	12	97	55	6	170
実受検者	10	94	55	6	165
受検率（%）	83	97	100	100	97

表-2 令和7年度（2級）第二次検定試験受検者数

2級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	13	218	7	27	265
実受検者	12	199	7	27	245
受検率（%）	92	91	100	100	92



第1種の検定試験状況

今年度の第二次検定の実受検者数は、令和6年度分の学科試験合格者により、1級と2級の合計で434名となり、受検種別では、第2種が圧倒的に多く、今年度の特徴として第4種、第6種の受検者数がこれまでと比べ増加しました。

種別	実技試験で使用する建設機械
第1種	ブルドーザー
第2種	油圧ショベル
第3種	モーター・グレーダー
第4種	ロード・ローラー
第5種	アスファルト・フィニッシャー
第6種	杭打機

今年度も「建設技術展」及び「ふれあい土木展」に出展します!!

10月30日(木)～10月31日(金)にインテックス大阪(6号館Cゾーン)で開催されます建設技術展にJCMA関西支部も出展します。

「ICT施工の普及促進」で、出展場所は会場内Aゾーン(団体)の4です。

皆様のご来場をお待ちしております。

ふれあい土木展 2025

11/14(金)・15(土)
10:00-16:00(最終入場時 15:30)
スタンプラリーは15:30終了です。

参加無料

国交通省 近畿地方整備局 近畿技術事務所
大阪府枚方市山田池北町11-1 TEL.072-856-1941(代) https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/

「ふれあい土木展 2025」が枚方にある近畿技術事務所で、11月14日(金)～11月15日(土)に開催されます。

こちらにもJCMA関西支部が出展します。

関西支部では、ホイールローダ・ミニショベル・ロードマルチ点検車・ジェットスイーパーの建設機械をはじめ、レーザーキャナによる点群データの作成を体験、建設機械のシミュレータにより無人化施工やICT施工のマシガイダンスの体験ができます。また、他にも色々な体験ができ、子供から大人まで楽しめるようになっておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。

建設技術展 2025近畿

ええもんが 使って、ええもん削る!

9つの分野に約600技術が集結

● 防災 ● 環境 ● コスト削減
● 安全・安心 ● 施工 ● 維持・更新
● DX・ICT ● 団体 ● 学校

2025.
10/30[木] 9:30-17:00
10/31[金] 9:30-16:45

インテックス大阪
6号館 Cゾーン

「コスモスエア」新 最上階ロビーから
会場まで無料シャトルバス運行!

入場無料

出展内容

1 土木・防災に関する展示・体験施設

- インフラDX土木の未来の体験
- 災害対策ヘリコプターの展示
- レンガロッカーアーチ橋立体験
- セントで小物づくり体験他

2 土木建設機械の展示・体験

- いろんな建設機械の運転席体験
- 橋梁点検車、トンネル点検車の展示他

阪神・淡路大震災 30年復興パネル展

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から、今年で30年。多くの命が失われ、生活が大きく変わった「あの日」を忘れず、これからの防災に生かすことが大切です。震災当時の写真や復興の記録を紹介いたします。

体験スペースのご案内

場内には、ゆったりとおくつろぎいただける体験スペースを多数ご用意しております。飲食も可能なので、体験しながら一日ゆったりとお楽しみください。

※体験コーナーは混雑が予想されます。お楽しみの際は事前予約がおすすめです。

その他、さまざまな体験・実演・展示をご用意しております。

会場までのアクセス

会場までのアクセス

近畿技術事務所

アクセスルート

枚方駅 徒歩約5分
山田池北駅 徒歩約10分

近畿技術事務所

枚方駅 徒歩約5分
山田池北駅 徒歩約10分

■「令和7年度施工技術報告会」講演者募集のお知らせ

近年関西圏で施工された建設技術、保全技術、環境技術の施工事例について募集します。

1人1題とし、過去に同じ工事で発表されている場合には、本発表との相違点を申込書類の講演内容に追記してください。講演時間は、一題あたり20分程度です。

日 時：令和8年2月12日（木）13時30分～17時

会 場：建設交流館グリーンホール

申込期限：令和7年11月28日（金）必着のこと

申込先：一般社団法人日本建設機械施工協会関西支部

下記アドレスの関西支部 HP よりお申し込みください。

<https://jcmakansai.main.jp/>

新入会員紹介



株式会社小森組

会社概要

会社名：株式会社 小森組

代表者：代表取締役 小森 正剛

所在地：和歌山県東牟婁郡申本町申本 1925

創業：1958年9月6日

設立：1961年1月19日

事業内容：木1式（陸上・海洋）、建築1式、生コンクリート（JIS）・
アスファルト合材・再生砕石に関する製造/販売

取得・認定：インフラDX大賞、インフラDX認定、工事成績優秀企業
認定、ISO9001、近畿地方整備局BCP認定

会社紹介

当社は和歌山県の紀南地方を中心に、土木・建築工事の設計・施工・管理を行っている総合建設会社です。特色として技術者と技能者（直営施工班）や100台を超える重機や車両、生コンクリートやアスファルト合材をはじめとした生産設備を保有し、60年以上地域の道路、線路、港湾施設、建物などを手掛け、また国道における10年以上の維持工事の経験等からも様々な災害復旧にも尽力し、総合的に地域インフラを支える責務を担ってきました。2022年からはICT施工を内製化し、3次元測量や3Dデータ作成、ICT建機での施工など全てを自社で完結できる体制を整え、同施工法を標準化することで「簡単に」「早く」「正確に」「誰でも」施工できることを目標としています。人口減少社会における担い手不足に対し、最新技術を用いることで生産性を向上させ、活躍できる人材を経歴によらず創出できるように「建設業の簡易化」を推進し、本州の「最南端でも最先端」を標語に広範囲に社会を支えていく責務を全うするとともに、「社会に必要」とされ、「面白い」建設業を楽しんでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入会員紹介



イノウエ道路管理株式会社

会社概要

会社名：イノウエ道路管理株式会社
代表者：代表取締役 井上 吾郎
所在地：本社 〒653-0022
神戸市長田区東尻池町9丁目1-20
TEL：078-515-6592
FAX：078-515-6593
木(こう)見(み)車両基地 〒651-2223
神戸市西区押部谷町木見
設立：1985年2月1日
事業内容：道路機械清掃（路面・側溝管渠・ガードレール等）
放置自転車撤去・運搬
下水道管更生
交通安全施設設置・修繕
鋼構造物塗装
橋梁修繕
海岸・砂防維持管理
法面処理
交通警備
産業廃棄物収集運搬

会社紹介

弊社は、一般廃棄物収集運搬業を営んでいる株式会社イノウエの道路部門を担う会社として設立いたしました。

業務関係ではロードスイーパーによる路面清掃を中心に排水管・トンネル・ガードレール等の機械清掃も自社の機械により行っています。また、兵庫県公安委員会より警備業の認証を取得し交通警備も担っています。

工事部門では道路の保全工事として橋梁の修繕・安全施設の設置取替・法面の落石防護・下水道管の管更生・それに付随する工事を行っており、品質の向上を図るためにISO:9001の今年中の認証取得を予定しています。

その他に国土交通省へのBCPの申請も完了し、令和7年10月の認定を予定しています。

今後はさらなる品質向上及び作業の機械化と昨年度より小型機械（連絡車・チェーンソー・刈払機）の電動化を図り、より一層現場作業のGX化を推進してまいります。



HAKUYO 白陽化学工業株式会社

会社概要

会社名：白陽化学工業株式会社
代表者：代表取締役 乙武 悦朗
所在地：本社 〒662-0051
西宮市羽衣町7番31号-1105
TEL：0798-61-2970 FAX:0798-61-2971
神戸支店 〒657-0059
神戸市灘区篠原南町1丁目6番29号
TEL：078-881-3132 FAX：078-882-3613
東播支店 〒677-0017
西脇市小坂町37-178
TEL：0795-22-8643 FAX：0795-22-8644
大阪支店 〒556-0020
大阪市浪速区立葉1-3-13
TEL：06-6563-2837 FAX：06-6563-2838
姫路営業所 〒670-0984
姫路市町坪36番地1
TEL：079-293-9351 FAX：079-293-9352
設立：昭和38年7月24日（昭和37年創業）
事業内容：交通安全施設工事及び交通安全施設用品の販売

会社紹介

弊社は路面標示および道路区画線の工事会社として昭和37年に創業いたしました。以来60余年に渡り、兵庫県下を中心に近畿一円にて、日々の安全な交通環境を支えるインフラ整備に携わり、現在では路面標示・道路区画線のみならず、道路標識、防護柵などの各種交通安全施設全般の設置等工事を行っております。

近年におきましては、国土交通省発注の京奈和自動車道の川地区防護柵設置他工事、紀勢道区画線設置工事、滋賀国道管内標識整備工事などを手掛け、また、現在西脇北バイパス標識設置工事および西脇北バイパス区画線設置工事の施工に取り組んでおります。

これからも地域の皆様が安心して暮らせる社会の実現を目指し、安心・安全な道路づくりに貢献できるよう、社員一同精進してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



金杉建設株式会社

会社概要

会社名：金杉建設株式会社

代表者：代表取締役 吉川 祐介

所在地：埼玉県春日部市南1丁目6番9号

設立：昭和25年9月14日

事業内容：総合建設業、開発企画、一般土木

加入団体：埼玉県建設業協会、建設業労働災害防止協会埼玉県支部

会社紹介

当社は、埼玉県春日部市に本社を構え、国土交通省関東地方整備局、埼玉県、近隣市町村を中心に道路・橋梁・河川・上下水道などのインフラ整備を担う総合建設会社です。ICT建機や先端機器を業界に先駆けて導入し、内製化を確立しDX推進による効率化と高品質な施工を実現。国土交通省より「インフラ DX 大賞 国土交通大臣賞」「i-Construction 大賞 優秀賞」などを受賞しています。

近年では、チルトローテータの導入や自社による自律走行式草刈り機の開発等、i-Construction2.0で掲げている建設現場のオートメーション化にも積極的に取り組んで参ります。

本陣水越株式会社

会社概要

会社名：本陣水越株式会社

代表者：代表取締役 水越 雄一

所在地：【本社】神奈川県小田原市栄町二丁目3番18号

設立：1995年4月

事業内容：・土木工事業（都市型 ICT 施工）
 ・運送事業
 ・チルトローテータの販売
 ・ICT 認定機械の開発・販売
 （杭ナビスペシャルアタッチメント 準平くんR）
 ・神奈川労働局長登録教習機関
 湘南トレーニングセンター（重機の教習所）の運営

会社紹介

本陣水越株式会社は、神奈川県小田原市に本社を置く、ICT 施工に特化した会社です。一般土木工事をはじめ、舗装、河川、橋梁、上下水道インフラ整備に対応し、地域の発展に貢献しています。また、2018年には建設機械の教習所「全国建設教習トレーニングセンター」を直営・フランチャイズ展開し、現役技術者による“活きた指導”を強みに、安全と即戦力育成を全国規模で推進。教育を通じて日本の建設業界にも貢献しています。これからも「感謝・変化・挑戦」を企業理念に掲げ、変化を恐れず新しい技術を取り入れ、持続可能な社会づくりに寄与していきます！！

支部行事報告

支部行事報告（4月）

月 日：4月21日（月）

場 所：関西支部 会議室

出席者：田口定一支部監査役、田中勝彦支部監査役

内 容：令和6年度決算報告及び関係書類に基づく監査の実施

■令和7年度第1回企画部会

月 日：4月23日（水）

場 所：関西支部

出席者：松本清志企画部会長以下5名

- 議 題：① 令和6年度事業報告(案)及び決算報告(案)の件
② 優良建設機械運転員等表彰の件
③ 令和7年度本部会長表彰の件
④ 会員の推移
⑤ 総会後の講演会について
⑥ その他

■建設用電気設備特別専門委員会（第504回）

月 日：4月23日（水）

場 所：中央電気倶楽部 会議室

- 議 題：① 競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認
② 委員会総会
 (1) 委員会申し合せ事項確認
 (2) 2025年度委員会名簿確認
 (3) 2024年度活動報告
 (4) 2025年度役員選出
 (5) 2025年度活動計画審議
③ 定例委員会
 (1) 前回議事録 確認
 (2) JEM-TR236 改正審議

■令和7年度第1回運営委員会

月 日：4月25日（金）

場 所：大阪キャッスルホテル

出席者：深川良一支部長以下26名

- 議 題：令和6年度事業報告(案)及び決算報告(案)の件
② 優良建設機械運転員等表彰の件
③ 令和7年度会長表彰について
④ 支部総会後の講演について
⑤ その他

支部行事報告（5月）

■支部通常総会

月 日：5月14日（水）

場 所：大阪キャッスルホテル

出席者：深川良一支部長以下119名

- 議 題：① 令和6年度事業報告及び決算報告の件
② 令和7年度事業計画及び収支予算の件
③ 本部事業概要報告
④ 令和7年度会長表彰
⑤ 優良建設機械運転員等表彰

講 演：『南極水床』

講 師：北海道大学 低温科学研究所・北極域研究センター 教授 杉山 慎氏

支部行事報告（6月）

■令和7年度第1回広報部会

月 日：6月4日（火）

場 所：関西支部

出席者：木村泰男広報部会長以下5名

- 議 題：① 「JCMA 関西」第123号について
② 確認事項

■建設用電気設備特別専門委員会（第505回）

日 時：6月4日（火）

場 所：中央電気倶楽部 会議室

- 議 題：① 競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認
② 前回議事録確認
③ 講演会・見学先の選定
④ JEM-TR236（建設工事用400V級電気設備施工指針）審議
⑤ その他

■令和7年度建設機械施工管理技術検定試験監督者打合せ

月 日：6月10日（火）

場 所：クレオ大阪西

- 議 題：① 試験監督要領について
② その他留意事項

■令和7年度建設機械施工管理技術検定試験

月 日：6月15日（日）

場 所：大阪電気通信大学寝屋川キャンパス

受検者：1級（一次327名、二次（筆記）86名）
2級（一次（共通）595名、一次（種別）1種32名、2種538名、3種3名、4種25名、

5種6名、6種12名) 二次(筆記) 291名)

支部行事報告(7月)

■令和7年度 第2回広報部会

日 時: 7月11日(金)

場 所: 大阪関西万博

出席者: 木村泰男広報部会長以下9名

視 察: 2025年日本国際博覧会(未来の都市)を視察

■建設用電気設備特別専門委員会(第506回)

日 時: 7月14日(月)

場 所: 中央電気倶楽部 会議室

- 議 題: ① 競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認
 ② 前回議事録確認
 ③ 講演会・見学先の選定
 ④ JEM-TR236(建設工事用400V級電気設備施工指針) 審議
 ⑤ その他

■「緊急災害応急対策業務に関する協定書」に基づく操作訓練講習会

月 日: 7月23日(水)

場 所: 近畿地方整備局近畿技術事務所

出席者: 児玉事務局長以下65名

- 議 題: ① 災害対策用機械による応急復旧活動について
 ② 災害対策用機械操作訓練
 ③ 無人化施工機械操作訓練

支部行事報告(8月)

■令和7年度1・2級建設機械施工管理技術検定(第二次検定) 試験監督者打合せ

月 日: 8月8日(金)

場 所: 関西支部

出席者: 児玉孝司事務局長以下5名

- 議 題: ① 実地試験実施要領について
 ② その他

■令和7年度 第3回広報部会

月 日: 8月19日(火)

場 所: 関西支部

出席者: 木村泰男広報部会長以下4名

- 議 題: ① 「JCMA 関西」第123号について
 ② 確認事項

■令和7年度1・2級建設機械施工管理技術検定試験(第二次検定)

月 日: 8月29日(金)~30日(土)

場 所: キャタピラー教習所(株)

延受検者数: 129名(1級14名、2級115名)

支部行事報告(9月)

■令和7年度 建設機械施工管理技術検定(第二次検定)

月 日: 9月6日(土)~9月8日(月)

場 所: コベルコ教習所(株)

延受検者数: 434名(1級123名、2級311名)

■建設用電気設備特別専門委員会(第507回)

日 時: 9月10日(水)

場 所: 中央電気倶楽部 会議室

- 議 題: ① 競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認
 ② 前回議事録確認
 ③ 見学会の計画(確認)
 ④ JEM-TR236(建設工事用400V級電気設備施工指針) 審議
 ⑤ その他見学会

■「建設技術展 2025 近畿」主催・共催者会議(第2回)

月 日: 9月18日(金)

場 所: 大阪マーチャングाइズ・マートビル

出席者: 児玉事務局長

- 議 題: ① 「建設技術展 2025 近畿」のプログラム及び全体概要について
 ② 開会式出席依頼について
 ③ 注目技術賞の審査員について
 ④ 当日の動員体制について
 ⑤ その他

■令和7年度施工技術報告会 第1回運営会(WEB会議)

月 日: 9月24日(水)

場 所: 関西支部

参加者: 児玉事務局長以下10名

内 容: 令和7年度施工技術報告会の開催概要について

■令和7年度 第4回広報部会

月 日: 9月25日(木)

場 所: 関西支部

出席者: 木村泰男広報部会長以下5名

- 議 題: ① 「JCMA 関西」第123号について
 ② 今後行事予定の確認



この度、JCMAは「JCMA重機部」を立ち上げました。

JCMA重機部とは、建設業界の魅力を伝え、「重機好き」をプロ集団でバックアップする活動を進めています。こどもでも、学生でも、大人でも、重機が好きな心をここでカミングアウトしてください。

また、担い手不足が顕著な建設業界において、大学生や高校生向けに重機の面白さ、カッコよさをアピールし、建設業界への興味を持ってもらう活動です。

【JCMA重機部の主な活動】

JCMA重機部の企業・団体が見学会などのイベント情報を、重機部サイト（このページ）や重機部SNSでまとめて配信します。

参加者希望者は、イベント情報をまとめて入手でき、SNSで拡散も可能になります。

【新規会員募集】

JCMA重機部に参加希望の企業様、個人様におかれましては、下記ホームページよりお申込みください。

<https://jcmanet.or.jp/juki-bu/>

編集後記

朝夕が涼しやすい季節となりました。

開幕前はたくさん話題に溢れていた大阪・関西万博ですが実際に足を踏み入れてみると、そこには多様な価値観が存在する希望に満ちた未来が広がっていました。テーマパークのようなワクワク感と、社会問題を考えるきっかけが同居する不思議な空間でもありました。

今回のJCMA 関西取材日は酷暑（最高気温 37℃）、夕方のゲリラ豪雨等非常に厳しい環境でありながら取材にご協力を頂いた皆様、誠にありがとうございました。

今回の万博会場の取材を通して多くの学びがありました。2025 年大阪・関西万博のテーマは【いのち輝く未来社会のデザイン】で、パビリオンは各々のテーマに沿った内容を披露しており、取材を行ったヘルスケアパビリオンでは、いのちをテーマにした再生医療の IPS 細胞による心筋シートの培養、未来の都市パビリオンでは、未来都市、未来生活をテーマにした体験、JAXA の展示ブースでは月での開発、生活をテーマにした映像を見ることにより、近未来への興味が湧き、私も頑張って長生きしたいという動機付けになりました。

万博会場の建設はコロナ禍のなかで、建設スケジュールの遅延や建設資材、労働力不足が課題となりましたが、関係者の努力により開業に間に合うことができ、大屋根リングという世界でも類のない大規模木造建築を日本の

建設会社が担い、世界中から賞賛の嵐を受け日本人として誇らしい限りでした。

来場者も 1500 万人を超え（8/18 現在）、目標とする来場者 2820 万人も見えてきた感じがします。大半の来場者は非常に満足と回答しているので 1970 年の大阪万博と同じく将来にわたり語り継がれるものと思います。

執筆している私も既に 3 回万博に来場しており（最終的には 5 回来場目標）、強烈な暑さとパビリオン待ち時間を除けば非常に満足できるイベントでした。

公式キャラクターのミャクミャクについては、初公開時は家族中で不思議な生物と思っていましたが、開催 3 ヶ月を超えた今ではミャクミャクくじで獲得したぬいぐるみも含め、家の中はミャクミャクグッズに溢れている状態です。

万博閉会後にミャクミャクロスにならないか心配しています。

さて、本誌 123 号では、（一社）日本建設機械施工協会 関西支部・深川支部長に巻頭言「地球沸騰に思う」と題して、地球温暖化がもたらす自然災害への影響や対策を早急に進めていくことが喫緊の課題である事をご寄稿いただきました。

深川支部長始め今回ご執筆頂いた皆様には改めて厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

原稿をお寄せください

『JCMA関西』に原稿をお寄せください。内容はなんでも結構です。

新機種・新工法の紹介、社内報の紹介、

随筆、川柳、提言、体験記、ご意見、 など…

送り先：一般社団法人 日本建設機械施工協会 関西支部



ておご
いま待感
ますち想
すし見
すしを

JCMA関西編集委員
木村泰男（委員長）
小段栄一
田口雅章
小西伸之
新稲信人
小迫和彦
児玉孝司（事務局）
松本克英（事務局）
橋爪涼子（事務局）



至天王寺 交通: 地下鉄谷町線天満橋駅④番出口より徒歩3分
京阪電車天満橋駅より徒歩5分

一般社団法人 **日本建設機械施工協会関西支部**

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル
TEL. 06 (6941) 8845
FAX. 06 (6941) 1378
e-mail jcmakans@muse.ocn.ne.jp
http://jcmakansai.main.jp